

株式会社 白崎コーポレーション
2022年1月期 アニュアルレポート



目次

社長挨拶	_____	3 ページ
財務ハイライト	_____	4 ページ
事業概況	_____	6 ページ
組織図	_____	8 ページ
企業活動（CSR）	_____	8 ページ
会社概要	_____	13 ページ
沿革	_____	14 ページ



経営理念 『自然と人間^{みんな}がいっしょに幸せになる仕事』

社会・経済構造が劇的な変化を遂げ、確たる指標なき時代、企業は自身の哲学を掲げることに
よって自らの道を切り拓かねばなりません。哲学のない企業に未来を創造することはできない。
—— 私どもが自ら質すなかで出した答えは

「自然と人間（みんな）がいっしょに幸せになる仕事」というキーワードです。

ここにはく地球環境・お客様・ビジネスパートナー・社員とその家族・株主＞という5つのステークホルダーとの共存共栄が謳われています。この5つのステークホルダーとの共存による「幸せの輪」の創造こそ、私どもが目指す企業像です。

たとえば、どんなに企業の利潤が上がっても、その事業が地球の環境破壊を引き起こしていたり、社会倫理に反していたりしたら、その企業は優良と呼べるでしょうか。そこに働く社員や家族は幸福と言えるでしょうか。ひとりひとりの社員が、自分の仕事がお客様に喜んでいただける、社会に貢献していることを実感できてはじめて自らの仕事に誇りと責任感を持つことができます。そして、その責任感にはビジネスパートナーとの相互信頼を育み、共に成長しお互いの事業の成功と発展にもつなげられるのです。さらに事業の成功は利潤を生み、株主の皆様にもご満足いただくことができると考えます。

白崎コーポレーションはこの「幸せの輪」の実現に向けて、ここに掲げた経営理念をすべての企業活動の礎とするべく胸に刻み込み、社会から尊敬される企業となれるよう、そしてトップを含め社員みんなが夢を語り合える企業となれるよう、今後も自らを厳しく律しながら挑戦を続けてまいります。



経営方針

- 一、 私たちはいつも環境に心を配り、地球の繁栄につくしていきます。
- 一、 私たちは顧客満足度の向上に努め、お客様の信用をたかめていきます。
- 一、 私たちはビジネスパートナーと共に歩み、確かな信頼関係を築いていきます。
- 一、 私たちは日々の仕事を通して自己を高め、豊かな未来をつくっていきます。
- 一、 私たちは適正な利潤を追求し、株主のみなさまの期待に応えていきます。



ミッション・ビジョン

ミッション 私たちは事業を通じて社会に貢献できる人を育てます。

ビジョン 全社員が自分の会社に誇りを持てるような最高の中小企業になります。



社長挨拶

「2021年度（67期）を振り返って」

代表取締役社長 白崎 智之

2021年を振り返ってみると、やはり新型コロナウイルスに翻弄された1年となりました。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響によって1年の大半が自由に行動出来なかったように感じます。最初に新型コロナウイルスが確認されてから早2年、未だに新しい型のコロナウイルスが発見され、様々な業種に大きな影響を与えています。被害の大きかった事業者の方々には心からお見舞い申し上げます。

さて、67期の弊社の状況ですが、全体では減収減益という厳しい結果になりました。やはりコロナ禍の影響が大きく、様々なコロナ対策の影響によってお客様に提案する機会が減少し、お客様や社員とのコミュニケーションが難しかったように感じます。また、グリーンナップ事業では62期以来の減収減益となりました。原材料の高騰に加え、以前と比較すると出張や展示会の機会が戻りつつあるものの、売上計画を達成できないまま経費を消費したことが減益に繋がったと考えています。一方、サプライビジネス事業では増収減益となりました。コロナ禍でリモートワークの推進やペーパーレス化がより促進され、トナーカートリッジの需要はますます減っていく傾向にあります。原材料の高騰もまだまだ進んでいますが、このような懸念材料が多い中でも売上を伸ばせたことは良かったと思います。

一方、当社において大きな変化があった年でもありました。今年の2月から私、白崎智之が新社長に就任し、前社長の白崎弘隆は会長に就任しました。また、若手社員を新しくグループリーダーに抜擢するなど、組織体制も大きく変わりました。最近ではSDGs活動にも積極的に取り組んでおり、若手メンバーを中心に推進プロジェクトを立ち上げました。

この新しい組織体制で80期に全社売上で100億、経常利益率で10%以上、更にサプライビジネス事業については可能な限り長期の事業継続を目指しています。私の考える「最高の中小企業」とは、社員一人ひとりが退職を迎えた時に、白崎コーポレーションに入社して働いてきて良かったと思ってもらえるような会社です。そのような会社にするためには、より働きやすいやりのある職場づくりが大切だと思っています。

これからも解決しなければならない課題や困難な出来事が待ち受けているかもしれませんが、最高の中小企業を目指して全社員と協力しながら取り組んで参りますので、みなさまのご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

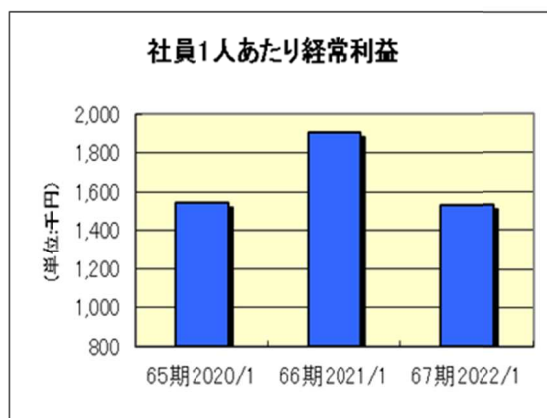
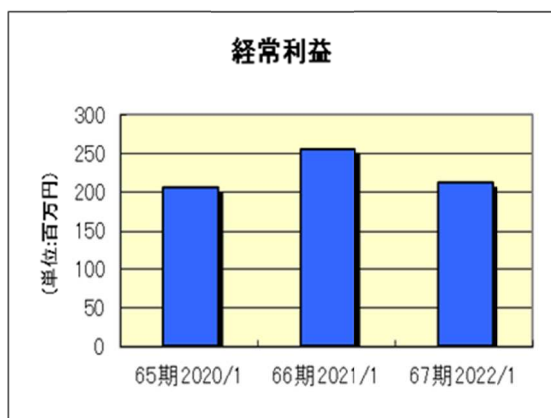
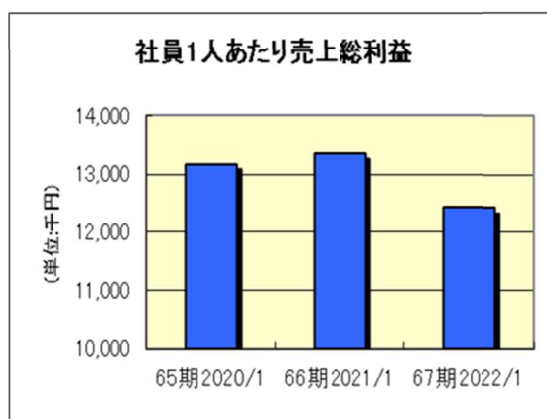
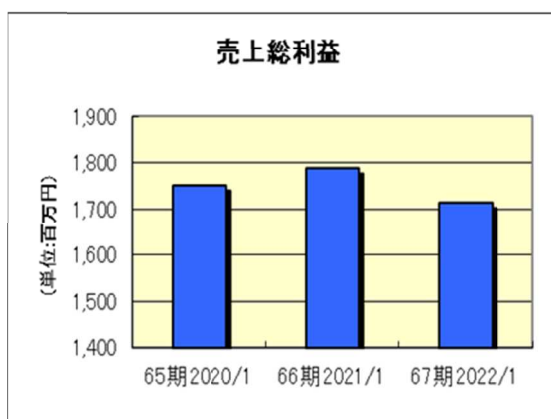
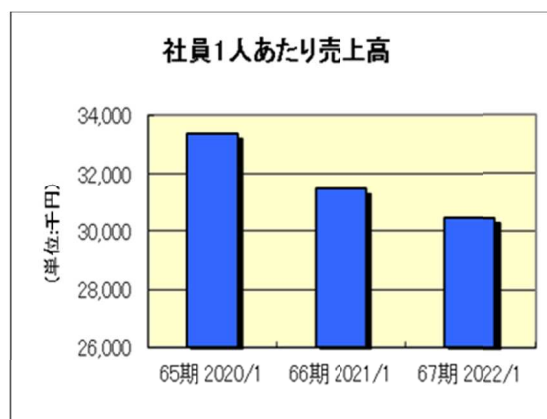
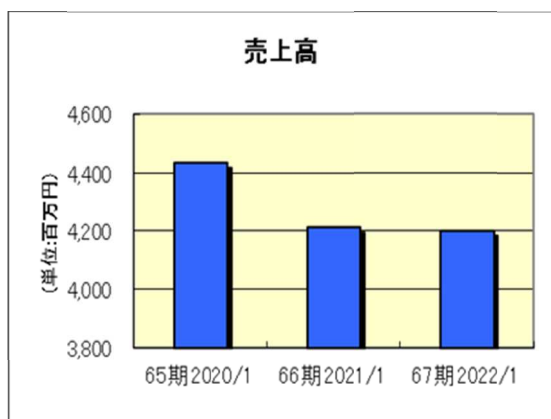

 財務ハイライト

	単位	65期 2020/1	66期 2021/1	67期 2022/1
売上高	千円	4,438,229	4,213,088	4,202,372
売上総利益	千円	1,751,072	1,788,225	1,713,396
売上総利益率	%	39.5%	42.4%	40.8%
経常利益	千円	205,570	255,633	211,575
経常利益率	%	4.6%	6.1%	5.0%
総資産	千円	2,917,252	3,090,036	3,082,303
自己資本	千円	1,340,671	1,453,596	1,571,621
自己資本比率	%	46.0%	47.0%	51.0%
総資産経常利益率	%	7.0%	8.3%	6.9%

2020年1月期（65期）から2022年1月期（67期）までの当社の決算の数値を掲載しています。

67期の売上高につきましては、再生トナーカートリッジや事務用消耗品の販売を行うサプライビジネス事業では、15億2,670万円と前期比7.3%の増収となりました。また、防草シートや緑化資材の販売を行うグリーンナップ事業では、26億4,383万円と前期比4.0%の減収となりました。これらに太陽光発電事業の売電収入を含め、全体では42億237万円と前期比0.3%の減収となりました。

利益面につきましては、売上総利益は4.2%減少となり、経常利益は2億1,158万円と前期比17.2%の減益の決算となりました。





事業概況

■グリーンナップ事業

取締役副社長 中川 豪

67期の事業活動を振り返ると、新型コロナウイルス感染拡大により年間3分の2以上の期間で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用され、結果的には営業活動の制限をやむなくされました。この状況下でも公共および民間の工事案件の動向は大きく減少しているとは感じていませんが、実際には営業時間や提案機会が制限され、これまで通りの主体的で自由度のある活動は難しかったと感じています。特に重要市場として位置付けている公共市場においては、多くの経営資源を集中させ人員や工数をかけている分、計画通りの新規のチャンネル作りや案件作りが進まなかったことは、業績への影響が大きかったと判断しています。また、太陽光発電市場においても、この1年の間に「卒FIT」を迎えて当社がターゲットにしていた規模の発電所建設が急速に減少し、いくつかの取引先が事業縮小や方針変換に舵を切ったことで大きな転換期を迎えたため、苦戦の販売が続きました。一方で国のエネルギー政策の中で再生可能エネルギーは2030年までに電源構成の36%~38%を目標に掲げられ、PPAモデル事業が新たにスタートしたことにより、今後は仕切り直して当社の商品・サービス需要も期待できる状況になりましたが、これらの目まぐるしい変化をいち早くキャッチし、それらに対応していく柔軟性が必要な市場であると改めて認識しました。いずれにしても太陽光発電はこの10年間に新しく出来て急速に広まった施設・インフラであり、地域社会や周辺環境に密接に関係する「もの」ですが、この施設が将来のエネルギーの主力となり、地域社会の中でうまく適合し共生しなければなりません。そのために取り残されている最大の課題は雑草管理と言っても過言ではないので、当社としては行政や太陽光O&M協議会などと連携し、この市場でのO&M事業、その中で雑草管理が重要なビジネスとして位置付けられるよう活動を推進していきたいと考えています。

さて68期は新社長のもと、グリーンナップ事業も新たな組織体制でスタートを切りました。新社長が掲げる80期に全社売上100億円を目指すためには、今までの延長では到達できないことは全社員の共通認識です。そこで、①人材の育成、②新商品の開発と改良、③新市場の開拓、④外部資源の活用、⑤知名度の向上、これらの需要成功要因を連動させながらレベルアップを目指し、防草シート販売ビジネスから雑草管理ビジネス、そして環境改善ビジネスへと関連性のある分野への拡大と深化の発展を目指したいと考えています。今後のグリーンナップ事業が全社を牽引する役割と責任を会社方針として明確に打ち出しており、そのために若手社員の成長に期待して、積極的に管理職に抜擢することで自らを成長させる環境とチャンスも整えました。そこでの新しい視点やアイデアで能動的に事業運営に参画することを期待しています。社員の成長が会社の成長であることを基本理念とし、社員全員が自ら考え、行動し、失敗を恐れずにチャレンジすることで大きな目標に一步步近づいて行きたいと考えています。

■ サプライビジネス事業

常務取締役 相澤 英昭

67期のサプライビジネス事業の状況については、新型コロナウイルス感染症の影響で国内の経済活動の停滞は続いており、リモートワークの継続や店舗の休業などでお客様の印刷頻度も戻っていないことから、リユーストナーカートリッジビジネスを取り巻く環境については厳しい状況が続いています。そのような環境の中でサプライビジネス事業としては増収減益という結果となりました。

新型コロナウイルスの影響による今後の見通しは不透明ではありますが、昨年度後半から経済活動も少しずつ回復の兆しが見えてきたように思います。このような事業環境下でどのように事業活動を進めていくのかについてご説明いたします。

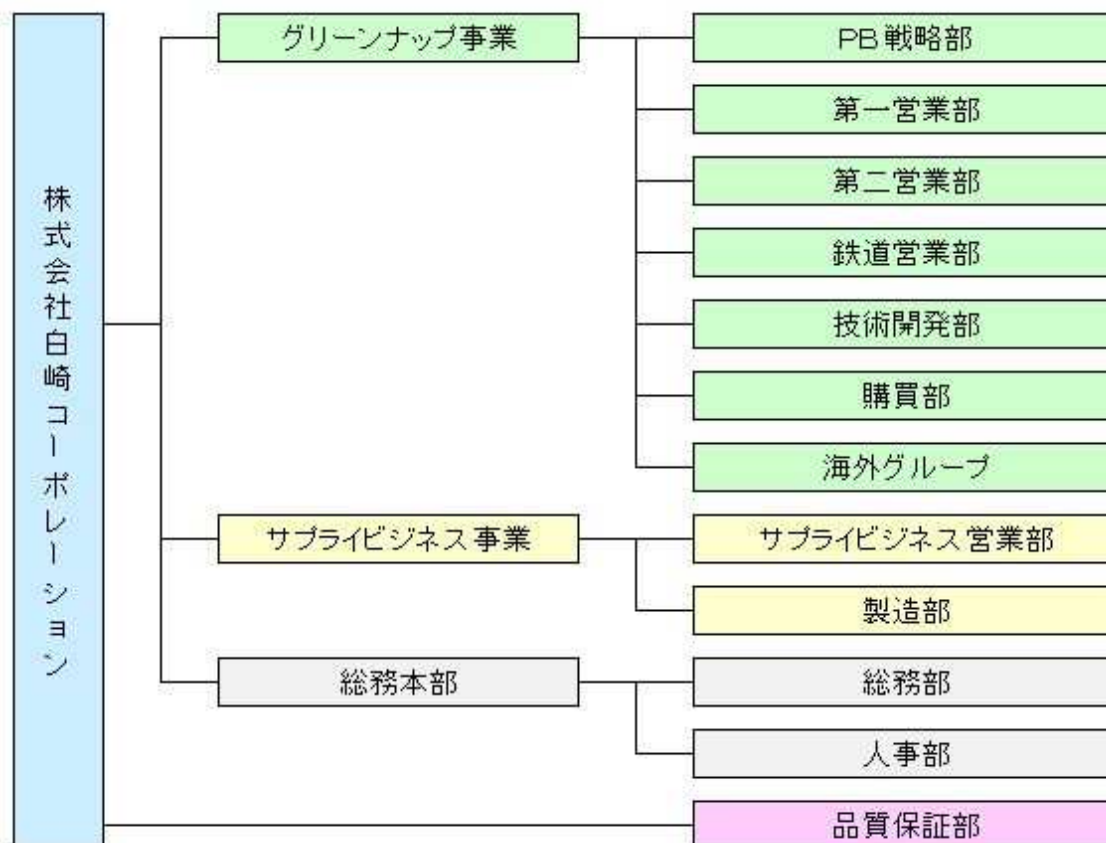
サプライビジネス事業のミッションは「私たちは再生トナーを中心に、お客様の利益に貢献できる製品・サービスを提供します」としており昨年度と変わっていません。お客様の利益には儲けの意味もありますが、お客様の為になる、役に立つという意味を含んでいます。即ちリユーストナーカートリッジなどの商材でお客様のお役に立つことが私たちの使命という内容になっています。また、同事業のビジョンは「私たちは製品・サービスの差別化を追求し、継続してお客様から選ばれるものづくり企業を目指します」としており、昨年度と比べて継続してお客様から選ばれるという部分を変更しました。これにより、各種差別化を図ることで現在ご購入いただいているお客様からの信頼を得て、末永くお付き合いをしていきたいという内容になっています。

このビジョンの実現に向けて注力すべき事項として、以下の二点があります。一点目はお客様とのコミュニケーションを密にし、各種要望事項にスムーズに対応していくことです。お客様から寄せられる製品の品質やサービス、運用面、対応機種など様々なご意見やご要望に対し、各部署が連携して解決に結び付ける対応スピードを強化していく取り組みとなります。二点目は新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ経済活動の回復に伴う世界的な需要の増加やウクライナ問題などの世界情勢により、原油をはじめ様々な原材料が高騰して収益を圧迫する要因となっているため、社内の各種改善活動によりこれらの影響を抑えるような取り組みとなります。

いずれの事項も容易な内容ではありませんが、社員一丸となって取り組んで参りますので今後ともご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。



組織図




CSR（企業活動）

先進国では社会が豊かになるに従い経済成長以外のさまざまな価値観が生まれ、企業評価の指標として、法律や制度で定められた範囲を超えて「よりよい行動」をすることを望ましいとする傾向が生まれています。弊社では経営理念および経営方針として企業活動をめぐる5つのステークホルダー（地球環境・お客様・ビジネスパートナー・社員とその家族・株主）との共存共栄を、また、ミッションとして社会に貢献できる人財育成を掲げてCSR活動体制の整備と強化を行っています。企業に求められる社会的責任の内容は時代とともに変化していきます。積極的な働きかけにより地域社会の抱えている問題を十分認識したうえで事業を通じて蓄積したノウハウや能力を社会に還元し、問題解決に貢献していくことが、地域社会からの信頼につながるものと考えています。

【1】法令及び企業倫理の遵守

■企業倫理

2001年に企業倫理の徹底を図るため、以下の5項目からなる「倫理二十五箇条」を制定しました。

1. 職場環境
2. 5S活動
3. 環境
4. 営業・業務活動
5. 会社資産の保護

これを社員全員が「経営理念」「経営方針」といっしょに毎日の朝礼で唱和をすることにより、理解の徹底から実行を図っています。

■お客様情報及び個人情報の管理

社内の情報管理については、以下の5つのセキュリティールールを定めて情報管理研修を実施するとともに全社員から誓約書を徴収し、情報漏洩の未然防止を図っています。

1. パソコンの利用に関するセキュリティールール
2. 外部媒体の利用に関するセキュリティールール
3. メール利用に関するセキュリティールール
4. インターネット利用に関するセキュリティールール
5. 白崎ネット（社内グループウェアシステム）へのアクセスに関するセキュリティールール

また、特に個人情報の取扱いについては、その取得から利用・開示・利用停止・消去に至る詳細な運用ルールを定め、個人情報の保護に努めています。

【2】社会性報告

1. 社員とともに

弊社の使命は「事業を通じて社会に貢献できる人を育てる」ことであり、そのためには「社員は財産（人財）」と考えています。社員が安心して働ける環境を整え、自ら考え、学び、行動できるような様々な制度や仕組みを作り、社会に貢献できる人づくりを推進しています。

■新卒採用 ～若いフレッシュな感覚に期待～

2007年から新卒採用活動を積極的に推進しています。若手社員をリクルーターに選抜し、彼らを中心に会社説明会や面接等を運営しています。2020年4月に3名、2021年4月に5名、2022年4月に4名の有望な人財を採用することができました。

■社員教育

社員の能力開発と挑戦する組織風土の形成を目指して、2005年度に教育体系をOJT・集合研修・自己啓発の三本柱として再編成を行い、2006年度から本格的な社員教育を実施しています。社員教育の基本は職場における指導・育成であるOJTにありますが、OJTでは補いきれない能力開発の場として階層別やテーマ別の社内研修を推進しています。

また、通信教育受講や社外研修等参加の費用補助も実施しており、社員の積極的な自己啓発の取り組みを支援しています。

■ビジネスキャリア検定試験と公的資格 ～専門能力と管理能力～

自己啓発の動機付けと取得能力を評価・測定するツールとして「ビジネスキャリア検定試験」の受験を推奨しており、春と秋に実施される試験には毎年多くの社員が受験しています。合格者は社内の掲示板に掲載し昇格試験にも活用しています。例えば、部長職であれば職務分野2級1科目以上および共通分野(労務管理、経営戦略など)3級1科目以上の合格が必須となっており、専門能力と管理能力の両面の自己啓発が要求されます。また業務に関連した公的資格への挑戦も奨励しており、難易度に応じてビジネスキャリア検定合格と同等の評価をしています。

■目標管理制度 ～目標は自分で考え、決めて、実行～

弊社の目標管理制度は、社員一人ひとりがそれぞれの部署の目標をもとに上司との話し合いを通じて自分の仕事の目標を立てて計画的に取り組み、四半期毎に年4回達成度合を評価する制度です。個人の目標は上司との個人面談を通して十分に話し合っ決めてことになっており、社員の自発的な行動を促す仕組みとなっています。

■褒める社風の定着 ～社員表彰制度～

会社や社会に貢献した社員を全員で褒め称えるために、以下の4つの表彰制度を制定し、広く社内に公開しています。

1. 永年勤続表彰
2. 白崎MVP
3. 改善提案優秀賞
4. 5S大賞

特に白崎MVPは2001年から続いており、社員相互により推薦された中から選抜されます。それらはすべてが公開され、ボランティア活動や他部門との連携・協力など、自分の業務以外の功績による推薦も多数見受けられます。

2. 地域社会とともに

企業も社会の一員であると考え、積極的な社会貢献活動に取り組むことにより社員の社会貢献意識を高めています。さまざまな活動を通じて地域の方々との交流を図り、地域社会と共に成長していきたいと考えています。

■NPO法人への支援

NPO法人「緑地雑草科学研究所」は、人々の生活圏の緑地環境を創り向上させることを目的として設立されました。そのNPO法人を支援することにより適切な雑草の制御技術や利用技術の確立と普及活動に貢献しています。

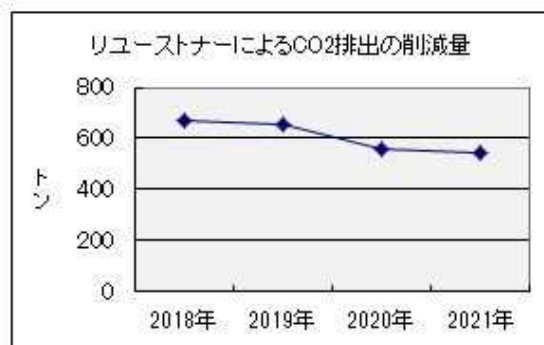
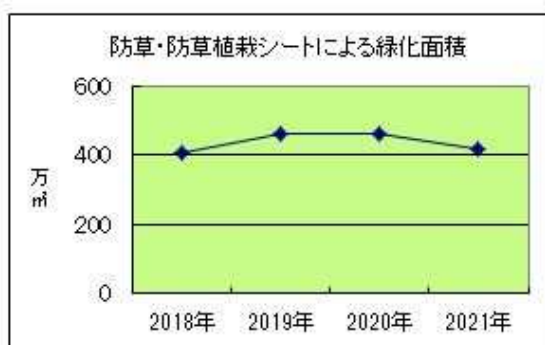
【3】 環境保護活動の実績

■防草緑化事業による環境保護

雑草を抑える防草シートや雑草を抑えながら目的の植物を育てる防草植栽シートを施工することにより、公園や道路の法面、太陽光発電施設等の雑草問題を解決して、貴重な緑地資産の価値を高めることができます。また低コストでの管理が可能になるため、維持にかかるエネルギーを削減しながら社会の景観美化を推進することができます。2021年度は419万㎡の緑化を行いました。

■トナーカートリッジリユース事業による環境保護

トナーカートリッジ本体を再利用するリユーストナーカートリッジは、限りある資源を有効に活用する循環型社会において重要な役割を担っています。リユーストナーカートリッジを使用することにより、本体のプラスチックの原料である原油を1本あたり2.6リットル削減できるという効果があります。また、リユーストナーカートリッジは本体のプラスチックの製造や廃棄処理におけるCO₂の排出量の削減にもつながるため、1本あたり3.4キロのCO₂が削減できるという効果もあります。2021年度は544トンのCO₂排出量削減につながりました。



■廃棄物のリサイクル

工場の生産工程で投入される材料や資材のロスを低減する、あるいはコピー用紙の再利用を行うなど、社内の省資源化に努めています。また発生したトナーカートリッジ等の廃棄物はプラスチックの原料や金属資源として、梱包材等に使用されていたプラスチックの廃棄物は梱包用ラップの原料としてリサイクルすることにより、資源の有効活用を行うと同時に最終処分量の削減に努めています。

■太陽光発電の導入

太陽光発電のメリットはクリーンな自然エネルギーであり、地球温暖化の原因となるCO₂の削減に大きく貢献できます。弊社が福井県内に所有している太陽光発電所には鯖江太陽光発電所と三国太陽光発電所の2箇所があり、2021年度は約65万キロワットの発電を行いました。これは、当社の全事業所で使用している1年間の電力量を上回っており、約1.1倍の発電量に相当します。

また、これらの太陽光発電所にはグリーンナップ事業で販売している「太陽光発電用防草シート」が使われており、太陽光発電の障害となる雑草の繁茂を長期間抑えることで、効率の良い発電を維持することが出来るようになっていきます。


 会社概要

会社名 : 株式会社白崎コーポレーション 設立 : 1955年7月2日 資本金 : 9,800万円 代表者 : 代表取締役社長 白崎智之 従業員数 : 128名(男81名、女47名) 事業内容 : 防草シート、防草植栽シート、その他緑化資材の開発・製造・販売 リユーストナーカートリッジの設計・製造・販売 トナーカートリッジ、インクリボン、その他事務用消耗品(OAサプライ品)の購入販売	
本社・福井工場	〒916-0076 福井県鯖江市石生谷町11-23 TEL: 0778-62-2200 (代表) FAX: 0778-62-3336 (代表)
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-3 小西ビル TEL: 03-6892-4400 (グリーンナップ事業直通) TEL: 03-3667-9881 (サプライビジネス事業直通) FAX: 03-3667-9880 (共通)
西日本営業所	〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通3-90-1 尼崎K.Rビルディング TEL: 06-6430-1713 (グリーンナップ事業直通) TEL: 06-6430-1711 (サプライビジネス事業直通) FAX: 06-6430-1715 (共通)
九州営業所	〒812-0042 福岡県福岡市博多区豊2-3-80 グランシャリオ豊 TEL: 092-473-1452 (グリーンナップ事業直通) TEL: 092-473-1430 (サプライビジネス事業直通) FAX: 092-473-1436 (共通)
福井物流センター	〒915-0801 福井県越前市家久町27-1-1 TEL: 0778-42-8353 (注文業務窓口) FAX: 0778-42-8515 (注文業務窓口) TEL: 0778-21-8500 (倉庫業務窓口) FAX: 0778-21-8502 (倉庫業務窓口)



沿革

- 1949年 創業者白崎元就が個人創業
- 1955年 福井県鯖江市に白崎テープ工業株式会社設立
- 1971年 白崎テープ工業株式会社とラーク貿易株式会社が合併
白崎テープ株式会社に商号変更
- 1989年 白崎弘隆が代表取締役社長に就任
- 1994年 白崎テープ株式会社と株式会社羽田が合併
株式会社白崎コーポレーションに商号変更
- 1996年 トナーカートリッジリユース事業への参入
防草緑化事業への参入
- 1997年 西日本営業所開設
シラサキベトナムコーポレーション設立
- 1999年 九州営業所開設
ISO14001認証取得
- 2000年 ISO9001認証取得
- 2005年 株式会社白崎ホールディングスに商号変更
ホールディングカンパニー制に移行
- 2011年 事業会社を統合
株式会社白崎コーポレーションに商号変更
シラサキベトナムコーポレーション売却
- 2012年 済南古菱納普商貿有限公司（ジナングリーンナップ）設立
福井物流センター稼働
- 2015年 鯖江太陽光発電所発電開始
- 2022年 白崎智之が代表取締役社長に就任